

全 国 労 働 組 合 連 合 会
 厚生連
 〒110- 東京都台東区入谷
 0013 1-9-5
 TEL 03-3874-3591
 FAX 03-3874-3593
 発行日 毎月20日 定価 30円
<https://www.zenkouro.org/>

全厚労ニュース

3面

働く人を増やせる
 診療報酬引き上げを

厚労省
 交渉

2面

コロナを分岐点に
 いのちを守る社会へ

第38回
 医療研究会

三重 4勤3休制度導入 「子どもと接する時間多く」



制度利用者へ アンケート聴取

三重県厚生連では21年4月より夜勤に従事する看護師・准看護師・助産師を対象に離職防止や多様な働き方の一環として4勤3休勤務を制度として導入しました。数年前より広島県厚生連で試行され始めた働き方で、制度化されたのは三重県厚生連が初めてです。

を行い、全員から回答がありました。アンケートでは、現在の制度利用者は全て女性で「育児・子育てのため」「介護のため」「自身の体調や家族のため」「家庭と仕事の両立」と様々な事情で30代から50代以上の方が利用されていることがわかりました。

三重県厚生連での4勤3休制度に関する賃金や労働条件は、おおむね基本給や各種手当75%支給（通勤手当については80%支給）、労働時間80%（月6日夜勤）、年次有給休暇80%付与となっています。実際に4勤3休制度を利用している3病院5名の方々にアンケート

「休みが増えて子どもと接する時間も多くなったから有り難い」「休みが多いと思う気持ちだけでも気が楽になる」「ストレスが減り楽になった」「休みが多くなり、精神的・身体的にも余裕ができた。子育てを祖父母に頼らずによくなり、宿題など一緒に取り組む

給与が減ることへの声も

制度について「周囲の人へ勧めるか否か、またその理由」の設問では「周囲の人に勧める」とした利用者は1名、残りの4名は「どちらとも言えない」と回答されました。「どちらとも言えない」とした理由に「夜勤6回に加え残業もある」「休暇の取得しやすい病院では制度の必要性が低いのではないか」と人から言われた」などの意見がありました。

また「フルタイム勤務が難しい時期であり、パートタイム勤務に変更を考えていたが、この制度が出来たことで正職員のまま休みも増え給与も貰えることは有り難い。し

首相への手紙 コロナ禍 私が経験したこと

「菅首相へ手紙を送ろう！」の呼びかけに、全厚労から14通集まりました。届いたうちの一部を紹介します。



◎コロナで、当たり前だったことがそうではなくなり、患者や家族とのコミュニケーションも難しくなりました。ちょっとした事からクレームをつける家族や患者もいてコロナのイライラをぶつけられる事もありました。

「何のために看護師をしているのかな」と思うこともあります。日本中の人々が心穏やかに、やりがい、生きがいをもって働けるように国民を守ってください。よろしくお願いします。（看護師）

◎医療従事者として体験した理不尽な出来事の一つにコロナに罹った患者様を受け入れている病院で働いていることで、偏見の気持ちが相手から伝わったことがあります。感染した方に対しても、医療・介護分野の方への偏見をなくすためにも、正しい知識や対応を全国民へ周知して頂きたいと思います。（理学療法士）

離職防止に つながる働き方

アンケートの最後に「他県でも制度の必要性があると思うか」との設

問に対して、「今後は他県でも必要になってくる制度である」と思っている」と回答した利用者は4名おり「有給休暇が取得しにくい環境では必要になってくると思う」「人は皆それぞれの生活事情があるから」といった意見がありました。

今回の4勤3休制度に関するアンケートでは、満足と不満の両方の意見がありました。離職防止に繋がる働き方であると思えます。他県においても今後4勤3休制度の導入が議論されることもあるかと思いますが、現在



また「フルタイム勤務が難しい時期であり、パートタイム勤務に変更を考えていたが、この制度が出来たことで正職員のまま休みも増え給与も貰えることは有り難い。し

また、女性医師の働き方については、妊娠・出産等によりキャリアを中断している女性医師において、仕事と生活を両立させることを目的として日勤専従制度を21年10月に導入しました。今後は短時間勤務制度・4勤3休制度の導入を目指しています。

（教宣部・小掠瑞樹）

コロナ後私たちが変えたいこと

第38回医療研究集会オンライン

11月14日、第38回医療研究集会をオンラインで開催し11県80名が参加。昨年度は分科会ごとのオンラインセミナーとして集会を開催しましたが、今年度は1日開催として準備をしてみました。午前中はプロローグ、特別学習講演、基調報告。午後は分科会リレー報告と参加者交流を行いました。今号ではプロローグと分科会リレー報告を紹介いたします。特別学習講演や基調報告など、集会動画を全厚労HPの組合員専用ページでご覧いただけます。専用ページのパスワードは、各県労組本部にお問い合わせください。

プロローグ

「命が何より大事」にされる社会へ

「医療研究集会へようこそ！」と始まったプロローグの集会テーマである「コロナ禍を分岐点に社会のあり方を変えよう！」について説明。新型コロナウイルス流行から約2年間、医療体制崩壊寸前とのニュースが連日流れたことに加え、日本の医療提供体制の脆弱性が明らかになって、政府は「自助・共助・公助そして絆」を繰り返すばかりだった。ベツド削減や公立・公的病院の再編・統合の基本方針は見直さず、社会保障費を削減してきたことが今の状況を生み出してきた。この間、運営委員会では、コロナ収



参加者でプラカードをもって記念撮影



プロローグ・左がまあば〜(高木)、右がももちゃん(安本)

病院で働く私たちが理解できるよう、医療政策や社会の仕組みについて全厚労医療研運動では、医療研初参加の方でも、医療を取り巻く、様々な問題や疑問を知ること、重点を置いたわかりやすい内容になっていること、そして、地域で起こっている問題に労働組合としてどのような取り組みができるのかも学ぶことができる、医療研運動への参加を呼びかけました。

分科会リレー報告では、第1から第4までの分科会が15分間でそれぞれの活動を紹介します。各分科会の歴史やテーマ設定理由、問題提起やこの間の取り組みについて「わかりやすく、知ってもらいたいこと」に重点を置いて報告しました。

第1 「医療労働者と地域との関わり」 今回の目的は、新型コロナウイルスの影響で明らかになった政府による誤った政策である「医療費抑制政策」「地域医療構想」「医学部定員の抑制」について、第1分科会の経過を踏まえながら、地域医療への影響を地域に伝え、住民と共に運動をすることや、医療労働者としても、住民としても地域医療を守る使命があり、私たちが住む地域や働く病院が存続するためには、地域を意識して働き、地域に根ざした病院にしていかなければならないと問題提起を行いました。



第1分科会(左上) 第2分科会(右上) 第3分科会(左下) 第4分科会(右下)

全厚労ホームページの組合員専用ページより特別学習講演や基調報告などの集会動画をご覧いただけます☆
専用ページのパスワードは、各県労組本部にお問い合わせください。



全厚労HPはこちら！
組合員専用ページ

グは、安本運営委員長と高木副運営委員長が、腹話術風に行いました。これまでの全厚労医療研運動・集会の様子や、今回の集会テーマである「コロナ禍を分岐点に社会のあり方を変えよう！」について説明。新型コロナウイルス流行から約2年間、医療体制崩壊寸前とのニュースが連日流れたことに加え、日本の医療提供体制の脆弱性が明らかになって、政府は「自助・共助・公助そして絆」を繰り返すばかりだった。ベツド削減や公立・公的病院の再編・統合の基本方針は見直さず、社会保障費を削減してきたことが今の状況を生み出してきた。この間、運営委員会では、コロナ収

第1 「医療労働者と地域との関わり」 今回の目的は、新型コロナウイルスの影響で明らかになった政府による誤った政策である「医療費抑制政策」「地域医療構想」「医学部定員の抑制」について、第1分科会の経過を踏まえながら、地域医療への影響を地域に伝え、住民と共に運動をすることや、医療労働者としても、住民としても地域医療を守る使命があり、私たちが住む地域や働く病院が存続するためには、地域を意識して働き、地域に根ざした病院にしていかなければならないと問題提起を行いました。

第2 「安心・安全の医療は使命。やっばり大切にしたい」 「働きがい」 1983年に看護問題の分科会として始まり、働く者どうしのわかり合いや、離職問題、働きがいについてのテーマの設定になった経緯を紹介。36回集会(潮来開催)の内容と、37回集会で今回のテーマにつながる事例として、コロナ禍での地域からの励まし声や、日赤の「コロナ紙芝居」、静岡厚生連の「がん患者へのリレーフォーラム」の取り組みなどを紹介しました。

第3 「病院を地域に開く」 予防医学を重点に置いていた佐久病院の若月一医師の演劇活動を取り入れた農民の健診事業から学び、病院祭などの取り組みを通して地域住民や患者に病院を開き、「ガマンしないで受診して」と知らせる

第4 「厚生連病院の果たすべき役割と憲法がねでコロナ後の厚生連をつくる！」 集会テーマであるコロナ後の社会の在り方として憲法を基準に考え、報告では参加者アンケートをその場で取りながら、憲法や立憲主義について、権力を監視し、権力者(政治家など)が暴走しないよう国民が主体となり声をあげ行動することが重要である

こと。憲法25条「生存権」に基づき、公的病院としてへき地医療や、そこで働く医療労働者が人間らしく働くことのできる社会へ変えていくために一緒に考えていこうと呼びかけました。今回の集会はコロナ禍でオンライン開催となり、医療研の特徴でもある3日間かけて深く議論することはできませんでしたが、多くの組合員に医療研運動を「知ってもらおう」ことを目的としました。日本の医師・看護師不足や地域医療切り捨ては、国の医療制度・政策で起こっています。そのことを私たち医療従事者が地域やそこで暮らす住民と共に考え、行動し、改善していくのが医療研運動です。是非皆さんも全厚労医療研運動へ参加して一緒に学び考えましょう。



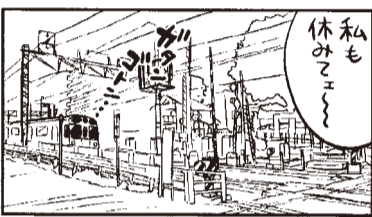
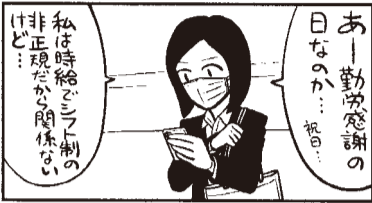
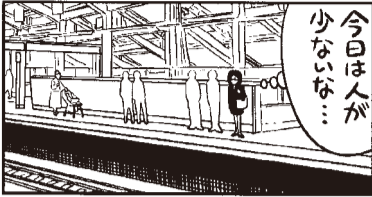
午後のスタートは大島委員による「ヤングマン」でみんな笑顔に

第2 「安心・安全の医療は使命。やっばり大切にしたい」 「働きがい」 1983年に看護問題の分科会として始まり、働く者どうしのわかり合いや、離職問題、働きがいについてのテーマの設定になった経緯を紹介。36回集会(潮来開催)の内容と、37回集会で今回のテーマにつながる事例として、コロナ禍での地域からの励まし声や、日赤の「コロナ紙芝居」、静岡厚生連の「がん患者へのリレーフォーラム」の取り組みなどを紹介しました。

第4 「厚生連病院の果たすべき役割と憲法がねでコロナ後の厚生連をつくる！」 集会テーマであるコロナ後の社会の在り方として憲法を基準に考え、報告では参加者アンケートをその場で取りながら、憲法や立憲主義について、権力を監視し、権力者(政治家など)が暴走しないよう国民が主体となり声をあげ行動することが重要である

こと。憲法25条「生存権」に基づき、公的病院としてへき地医療や、そこで働く医療労働者が人間らしく働くことのできる社会へ変えていくために一緒に考えていこうと呼びかけました。今回の集会はコロナ禍でオンライン開催となり、医療研の特徴でもある3日間かけて深く議論することはできませんでしたが、多くの組合員に医療研運動を「知ってもらおう」ことを目的としました。日本の医師・看護師不足や地域医療切り捨ては、国の医療制度・政策で起こっています。そのことを私たち医療従事者が地域やそこで暮らす住民と共に考え、行動し、改善していくのが医療研運動です。是非皆さんも全厚労医療研運動へ参加して一緒に学び考えましょう。

嘘門福来る? カクイシ ジュンスケ



政府公約「看護師・介護士、保育士」賃上げの実現を

人員確保・増員には財源が必要



完全zoom形式での交渉。コロナ禍での医療現場の実態を訴えた

11月5日、全厚労は第2回中執と合わせて、厚労省交渉を完全Zoom形式で実施。前回6月とほぼ同じ要求でしたが、具体的な説明文書も補強しながら、財政支援や診療報酬による抜本的な改善・規制が必要なことを強く訴えました。

国からの「医療・介護従事者支援」を形に

最初に、「改めて医療・介護従事者への『慰労金』を差別なく一律支給して欲しい」という要求を掲げて交渉。20年度の慰労金が様々な条件により、5〜20万の差別支給だったことや都道府県でも取り扱いに違

いがあり、手続きの混乱や現場の分断をもたらしたとして、「今もコロナ対応・非対応に関わらず、感染対策等で緊張を強いられ、ストレスが溜まりっぱなし。一般社会と違って、旅行や会食なども制限されている。医療従事者であるが故の差別や偏見も続いており、仕事を辞めるかのギリギリの状態を働いている。国として医療・介護を支えるという姿勢を『慰労金』という形ででも、しっかりと表して欲しい」と訴えました。一方、コロナ対応者への処遇については、「国としてコロナ『特別手当』を最低保障し、国費として財源を保障すること」を求めました。

厚労省は、「昨年

21秋・厚生労働省への要請項目 (概要)

1. 医療従事者や医療機関に対する財政支援など国の予算の抜本的増額。
 - 1) コロナ対応への財政支援の継続。減収補填など医療機能維持のための対応。
 - 2) 医療・介護従事者などエッセンシャルワーカーへの平等な「慰労金」再支給。
 - 3) コロナ「特別手当」を、国として最低基準を定め、国費で負担すること。コロナ受入病院の全職員に対する手当を国費で賄うこと。
 - 4) 「総合確保基金」による病床減らしを止め、余裕ある病床確保と余裕を持った人員体制維持のためにこそ「基金」を活用すること。
2. 医療安全と医療従事者の労働条件改善のための診療報酬制度の設計や改善。必要に応じた国の財政支援。
 - 1) 新興感染症対応の感染症病床の確保と十分な収支が見込める診療報酬体系の構築。
 - 2) 看護職の人員配置基準を抜本的に改め、底上げを行うこと。
 - 3) 重症度、医療・看護必要度の基準の抜本的簡略化・重点化。
 - 4) 研修・委員会の勤務時間算定の拡大。特に医療・看護必要度の研修。
 - 5) 人員体制の評価加算制度の充実。特に認知症患者に対する加算増。
 - 6) 医療安全と労働者の健康のため、以下の基準を要件にすること。
 - ①夜勤1回の勤務は原則8時間まで
 - ②交替制での時間外労働の限度時間を定めること
 - ③夜勤交替制勤務者の法定週労働時間を32時間に規制
 - ④夜勤上限は個人で「月8日(3交替)」、夜勤時間は64時間以内
 - ⑤12時間以上のインターバル確保
 - ⑥最低年休取得の規制。政府目標70%を下回らないこと
 - 7) 診療報酬制度の抜本的な簡素化と、医療事業に必要な費用を保障すること。

最低7対1基準で入院基本料大幅引き上げを

診療報酬について、厚労省は「各保険医療機関が提

賃金・労働条件を診療報酬で保障せよ

「診療報酬による労働条件規制」の要求について、厚労省の回答は前回6月と

ス対策として現場の苦勞に
応えたもので、今後は考
えていない」、「手当などの賃
金・労働条件は、各々の経
営判断や労使関係で決定さ
れるもので、国として定め
るつもりはない」としました
が、「医療現場への支援は重
要と考えており、岸田総理
の指示の下、経済対策(※)
が策定され、それを踏まえ
た補正予算も大詰めを迎え
ているところ」だとしました。
※報道では当初、看護師の賃
上げは、救急病院の看護師
約20万人の限定とされ、対
象が狭すぎるという批判を
受け、コロナ対応の医療機
関の看護職員を対象と変更
しかし、月額4千円という
金額も対象も極めて狭いも
のとなつています。

主張しました。
厚労省は「中医協でいま
まさに議論をしていること
ろで、お答えできる状況に
ない。皆さん方のご意見・
ご要望を踏まえて、中医協
で議論していきたい」と答
えるに留まりました。
岩本委員長は、「診療報
酬改善してもらおうべく、今
日の要請を行っている。中
医協のメンバーには、労働
者側委員が非常に乏しいの
で、我々現場労働者が名前
を連ねることができるよう
検討してもらいたい」と強
く要請しました。
岡部中執(神奈川)は「イ
ンターバル規制と年休取得
を重点に進めれば、変則的
な夜勤交替制勤務はかなり
改善されると思う。診療報
酬体系に盛り込むと同時に、
具体的な指導を強めるべき
だ」と指摘しました。
厚労省からは、「働き方
改革では、特にインターバ
ル規制や深夜労働の回数設
定を定めた。導入のマニユ
アルや周知事例、中小企業
への助成、働き方改革支援
センター等での相談、支援
を進めている」との説明が
なされましたが、診療報酬
上の規制についてのコメン
トはありませんでした。
最後に岩本委員長から、
「私たちの要求は、地域医
療を守るためには働く人を
増やして欲しい、という一
点に尽きる。そのためにも
労働環境や賃金を改善する
ことが必要で、診療報酬に
反映させて欲しいというこ
と。ぜひそこを理解して欲
しい」と訴えて、2時間余
りの交渉を終えました。

Q&Aで学ぶ労働基準法 第7回

呼び出し時の労働時間はいつから?

Q. 休み中に呼び出し(オンコール)を受けることがあります。その場合、勤務時間はどのように扱いますか? なお、これまで呼び出し時から勤務としてきましたが、ICカードによる勤怠管理に伴い、打刻時からの変更を提案されています。

A. 本来、労働者は労働を提供する義務のない日時にまで、働く必要はありませんが、人員不足で、不測の事態に満足に対応できない医療提供体制の下で、呼び出し(オンコール)勤務が常態化しているのが実態です。

「労働時間」の基本的な考え方は、「使用者の指揮命令下にある時間」とされています。労働義務のない時間に、指揮命令によって「時間的」「場所的」に拘束を受けている場合には、労働時間とあたると解されています。

詳細な説明は、QRコードから全厚労HPを参照して下さい。

頑張る仲間 各県この人

各県・現場で運動に、趣味に、仕事に頑張る人々を紹介するコーナーです。第168回は茨城と徳島にお願いしました。



熊谷 藤田諒さん

今回熊総労では、書記次長を務める藤田諒さん(作業療法士)を紹介し... 藤田さんは訪問リハ領域の作業療法士として、地域で暮らす方のためにリハビリを行っています。また、若年性認知症の集い等にも参加するなど、院外でも幅広い活動を行っていて、とても頼りになる先輩です。組合では初のzoom定期大会開催にあたり、参加者向けのzoom使用説明書の作成などコンピューター関連の仕事にも強く、執行委員を陰で支える縁の下の力持ちです。コロナ禍ということで大変な時期ですが、執行委員一丸となって頑張ります。

原菜由子さんは、先輩・後輩共に親しまれる愛嬌のある6年目ナースです。口を開けば「原です。」と何度も自己紹介してくれます(笑)。年配の方とのコミュニケーションが上手で患者さんからも、とても人気です。最近ハマっていることはゲームで「Dead by Daylight」、「マインクラフト」をしています。通信して先輩・後輩と楽しんでいるそうです。原さんを、よろしくお願いします！



徳島 堺実貴子さん

当選者は3・8倍(クロスワード・間かせて、読者の声計15名当選)でした。

- ヨコのカギ
- 1 地球上最大の哺乳類
- 4 元禄15年12月14日(旧暦)の出来事です
- 7 資源の再生利用
- 9 都道府県のトップ
- 10 ごくわずか。……志
- 11 放し飼いの猛獣を車の中から見る……パーク
- 13 ゴホン!といえ
- 14 間取り図にあるNとは
- 16 別名は尾花
- 18 数をごまかすこと。……を読む
- 19 発信・送信の反対は?
- 21 日本の国鳥です
- 22 援……、互……
- 23 高級なブランドです
- 25 日本の梨の代表的品種
- 26 領収書に貼る収入……

ザクロスワード

出題▶モロゾミ勝

1	2	3	4	5	6
7		8		9	
10		11		12	
	13		14		15
16	17		18		19
20		21		22	
23		24		25	
26					

【問題】二重ワクの文字を、A~Fの順に並べてできる言葉は、なに?

- タテのカギ
- 1 12月の大イベント
- 2 自分でほめること
- 3 ……雲……鳥
- 4 第58代横綱、千代の富士の愛称は?
- 5 花一つ
- 6 団体などにある職名
- 8 盛んな勢いに服従すること。……もなびく
- 12 あまり人に知られていない良い場所
- 15 液状の鉱物資源です
- 17 漫画・文学仲間の雑誌
- 18 生まれ育った境遇
- 20 朝晩にする人が多い
- 21 アフリカとアジアをつなぐ……半島
- 22 摂氏や華氏で表す……英語ではアクシデント
- 23 ハワイの伝統的装飾品

読者の声

「コロナの入院患者さんが減り、気が楽になりました。このまま収束してほしいです。」 (三重)

「気が楽になってよかった。」「柿が赤くなれば医者の方が青くなる」。秋ですから、おいしいもの沢山食べましょう。(HT)

高3、中3の親です。昨年に引き続き、コロナの影響で研修旅行、修学旅行も中止と言う事で、薄々予想はしていた事なのですが、微かな望みを抱いていた娘たちのガッカリした様子を見るとやはり辛

先月、初めてコロナ対応をすることがあり、緊張と不安でいっぱいでした。それでもこれまで経験したことのない対応を病棟のメンバーや他職種の方々と相談し合いながら、なんとかこなせたことが自信になりました。(OG)

旅行中止は残念ですが、友達たちと写る卒業アルバムはきつと笑顔だと思えますよ。アルバム楽しみに待ちましょう。(富山)

「誰でも初めて行うことは緊張します。一度でも対応していることが自信につながります。何事もチャレンジし、色々な経験を積むことは大切なことですよね。」(KU)

川柳の全厚労女性委員会賞「届けたい マスクのしたのスマイルを」が本当に素敵な川柳だと思いました。マスクをしていても笑顔が伝わってほしいです。(北海道)

「顔が隠れていても口角をキュッと上げて、気持ちも上向きで行きたいですね。」(EN)

読者の声大募集!!

新年号(12月・1月合併号)に向け読者の声を大募集します。通常号より多く掲載予定で、掲載された方には図書(クオ)カードを差し上げます。普段クロスワードだけの投稿の方もこの機会にぜひ「読者の声」を投稿ください。

医労連共済に加入している方へ

キャンペーンのお知らせ

継続手続で「型上げを忘れていた!」というようなことがないように、「お知らせメール」の登録キャンペーン中です。登録いただいた方には、年明けから5月までの間、毎月第1・第3木曜日にニュースが配信されます。上記QRコードから簡単に登録できます。個人共済の加入者で12月末までに登録いただいた方には、継続手続終了後にクオカードがプレゼントされます。この機会に、ぜひ型上げもご検討下さい!

☆HPをリニューアルしました☆

右のQRコードから全厚労ホームページを開き、過去の全厚労ニュースを見る事が出来ます。

読者の声、間かせて・教えて、クロスワードはすべてQRコードよりスマホから投稿できます。氏名・住所・希望景品(図書カード又はクオカード)は必須事項です。

教宣部のつぶやき

最近のサブライズは下宿している子どもたちが突如帰省してきたことでした。当然家にいる一番の子どもはとても喜んでいましたが、自分という嬉しい反面、新幹線代などを渡すと財布の中の小遣いが……一週間足らずの短い期間でしたが、久々に家族が揃って賑やかでした。これからはいつ帰省してきてもいいように少しでも無駄使いを減らし小遣いを貯めるよう頑張ってみようと思います。(OG)